

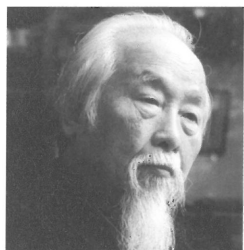
8.6 STOP THE ATOMIC BOMB! Hiroshima STOP THE AIR RAID! Peace STOP THE NUKES! 2010

ヒロシマ ー 平和のタベ ー

2010年 8月6日(金) 開場 16:00 開会 16:30

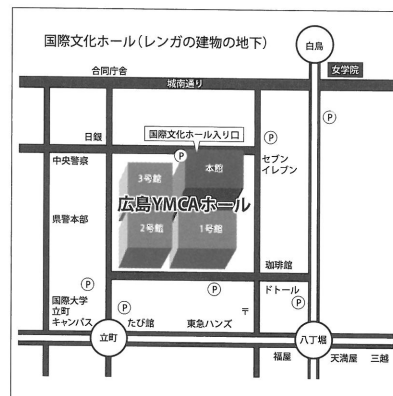
広島 YMCA・国際文化ホール

広島市中区八丁堀 7-11 TEL(082)227-6816



平和講演 高 史明 (作家) ko samyon 고 사명
ー ヒロシマの継承と連帯を考える ー

1932年、山口県下関市生まれの在日朝鮮人二世。本名 金天三(キムチョンサム)。上京し、さまざまな職業につきながら、政治活動に参加。71年、長編小説『夜がとぎの歩みを暗くするとき』(筑摩書房)で作家デビュー。74年、生い立ちを綴った『生きることの意味』を発表。岡百合子夫人との間のひとり息子である真史くんが12歳で自死。深い悲しみを契機に一層親鸞に親しむ。76年、遺稿詩集『ぼくは12歳・岡真史詩集』を妻とともに出版。75年に日本児童文学者協会賞、93年に第27回仏教伝道文化賞を受賞。現代世界の闇と向き合い、未来への不安、無力感、喪失感と闘う21世紀の若者にやさしく語りかけている。最新の著書は4月に『高史明の言葉ーいのちは自分のものではない』(求龍堂)、6月に『月愛三昧ー親鸞に聞く』(大月書店)。



平和のタベ
(反戦・平和研究集会)
実行委員会

連絡先 / 〒733-0022
広島市西区天満町 9-8 白土ビル 1F 「百姓や」
平和のタベ (反戦・平和研究集会) 実行委員会
TEL: 090-1338-1841
FAX: 082-296-1444
E-mail: heiwanoyuube@excite.co.jp
郵便振替口座: 01330-7-47740
反戦・平和研究集会実行委員会

《プログラム》

- 司会 河野 美代子 (産婦人科医 被爆二世)
- リレートーク 池田 精子 (広島県被団協副理事長)
- 知花 昌一 (沖縄・読谷村議員, 反戦地主)
- 岡田和樹 (上関原発を考える広島20代の会呼びかけ人)

参加費 / 1,000円 (高校生以下 無料)

●19:30~ おひさしぶり交流会 (高 史明さんを囲んで)
コンベンションホール (2号館 地階)

関連企画

上関・祝島現地交流ツアー

(原水禁山口主催) (要申込)
8月5日(木) 7:45
JR広島駅集合

被爆電車・平和学習

8月7日(土) 10:30~ JR広島駅南口噴水前集合
11:00~電車出発
13:00~平和記念資料館東館地下会議室2

米澤 鐵志(電車内被爆者) 福島 和男(『平和記念公園の下に眠る幻の中島界隈 原爆家族を捜して』を自費出版)

海をこえ、願いはひとつ。 바다를 넘어서 원하는 게 하나

負けるものか
まけるものかと
朝鮮のお友だちは
炎天の広島駅で
戦争にさせないための署名をあつめ
負けるものか
まけるものかと
日本の子供たちは
靴磨きの道具をすて
ほんとうのことを書いた新聞を売る

君たちよ
もういい だまっているのはいい
戦争をおこそうとするおとなたちと
世界中でたたかうために
そのつぶらな瞳を輝かせ
その澄みとおる声で
ワッ！ と叫んでとび出してこい
そして その
誰の胸へも抱きつかれる腕をひろげ
たれの心へも正しい涙を呼び返す頬をおしつけ
ぼくたちはひろしまの
ひろしまの子だ と
みんなのからだへ
とびついて来い！

—墓標（最後の部分のみ抜粋）— 峠三吉『原爆詩集』より



「韓国人原爆犠牲者慰霊碑」

原爆が投下された1945年（昭和20年）には、日本国内に約200万人もの朝鮮人がいたのです。このうち、広島にどれくらいの人々が住んでいたかははっきりしませんが、韓国原爆被害者協会、広島県朝鮮人被爆者協議会などの調査では、約5万人が原爆投下に遭い、約3万人が亡くなったとされています。（『ヒロシマは語る 平和学習のために』広島県原爆被害者団体協議会 より）

今年もまた、あの暑い夏がやってきます。

被爆の惨状から65周年。そして、韓国併合から100年という節目の年となります。被爆者の方たちは、この65年間、核廃絶を願いながら平和を訴え続け、そしてつぎつぎと命づきています。

日本において、この国の根幹である憲法の改憲手続きを定めた国民投票法が成立したのが07年5月。3年たった今、いつでも国会の憲法審査会での改憲論議が始められることになります。アメリカの核の傘の下で、自ら核兵器をつくることのできる原子力発電所が増やされ続けています。昨年の8月6日には、広島の地において、改憲論者の講演会が堂々と開かれるという状況までつくられています。

一方、世界では、イラク・アフガニスタンをはじめとして、戦争が絶えず繰り返されています。

核兵器は一向に減らされる気配がありません。いつでも核戦争が起こされる危機が続いています。

このような状況のなかで、私たちはこれまで、8月6日の広島で「平和集会」をやってまいりました。集まった仲間たちと、これからどう生きるのか、どう声をあげるのか、自らの問題として、熱い論議をしてまいりました。

今年も、私たちは8月6日の広島に集います。平和講演は、高史明さんをお願いしました。日本の侵略により、命を奪われ、言葉や名前、文化まで奪われた朝鮮半島の方たちの声を聞き、考えたいと思います。

今年も一人ひとりが主人公の集会です。

集いましょう。そして、考えあい、語りあいましょう。

発言者



池田 精子

Seiko Ikeda

（広島県被団協副理事長）

1932年生まれ。高等女学校1年生であった12歳の時、爆心地から1.5km離れた場所で疎開の作業をしていたときに被爆。郊外にある自宅で治療した後、15回の手術を繰り返す。被爆証言活動も積極的に行い、これまでに米国とイタリアにそれぞれ5回訪問。中国、タヒチ、インドにも出向いた。2007年、イタリア・フラスカーティ市から被爆証言活動で名誉市民賞を受賞。「美しい地球を守り、世界中の人たちが平和で安心して暮らせる日が一日も早く訪れることを、私たち被爆者は祈っています。その祈るような思いを、いつ襲いかかってくるかもしれない後遺症との闘いの糧にしているのでございます。」（被爆者からの手紙 2008年8月29日 中国新聞）



知花 昌一

Syoichi Chibana

（沖縄・読谷村議員、反戦地主）

1948年、読谷村生まれ。45年4月、米軍の大軍は読谷の浜に上陸。沖縄戦は「鉄の暴風」と言われた。沖縄大学中退。自治会委員長として「復帰闘争」に参加。87年、戦後初の天皇沖縄訪問に抗議、国体会場での「日の丸」を引きおろし焼き捨て、逮捕。裁判闘争などで89年、多田諺子反権力人権賞を受賞。「象のオリ」返還を求め家族と立ち入り。「なぜ、50年も60年も沖縄に基地があるのか。きつい言い方をすれば、（本土の）日本国民が望んだからではないか」。



岡田 和樹

Kazuki Okada

（上関原発を考える広島20代の会呼びかけ人）

1986年広島県生まれ。ハチの干潟調査隊代表。2009年11月、原発予定地工事にシーカヤックで抗議中、暴行を受け負傷、入院。これを告訴。しかし、中国電力は4800万円の損害賠償を求め、裁判中。「原発よりも命の海を！」（2010年3月、中電前72時間ハンスト 緊急アピール、ハンスト宣言文）。

2010年呼びかけ人

秋田 明大 Akehiro Akita
（自動車整備工）

中村 周六 Syuuroku Nakamura
（浄土真宗本願寺派僧侶 釈等正）

原 伸幸 Nobuyuki Hara
（百姓や会、長崎被爆二世）

横佩 智恵 Tomoe Yokohagi
（ハンドインハンド広島 代表）

立川 久美子 Kumiko Tachikawa
（スペイン・バル オーナー）

